



母児の予後に重篤な子宮内感染の 予知診断検査法の開発



福岡大学病院 講師

漆山 大知

分野 周産期（産科）、マイクロバイオーーム研究

キーワード 子宮内感染、早産、腔内細菌叢解析、PCR法、次世代シーケンス法

○ 概要

子宮内感染と子宮内炎症は早産の主要な原因である。子宮内感染・炎症のある早産児では、炎症性脳障害が誘起され発達障害や呼吸機能障害が高頻度で発生する。しかし、発症した子宮内感染は抗菌薬による治療は困難である。したがって、子宮内感染が発症することを予測診断する検査法の開発が急務となっている。本技術は絨毛膜羊膜炎の発症を高精度に予測することができる発症予測方法である。

腔内細菌叢の乱れが子宮内感染の原因であることから、元来は培養法やPCR法で腔内細菌叢研究がなされてきたが十分な研究成果には至っていなかった。我々は、次世代シーケンス法による網羅的・定量的解析で腔内細菌叢の乱れを検出することに成功した。また、その結果を活用して複数の菌をPCR法で解析し、腔内細菌叢の乱れを検出することにも成功した。

○ 特徴、効果、独創的な点

- 高い汎用性
- 高い信頼性（予知性）
- 高い新規性

○ 適用分野、用途

- 子宮内感染や早産の予知診断
- 細菌性腔症や腔内フローラの診断

○ 論文、知的財産情報等

- 絨毛膜羊膜炎の発症予測方法（PCT/JP2020/045298）
- 絨毛膜羊膜炎の発症予測方法（PCT/JP2020/045299）